

3 みんなが「分かる」、「できる」授業づくりチェックシート

みんなが「分かる」、「できる」授業づくりに向けて、まずは普段の授業について、次のチェックシートを活用して、できている取組、できていない取組を確認し、できることから取り組んでみましょう。取組に当たっては、次ページの4以降の取組事例を参考にしてください。

	項 目	具体的な取組内容	チェック
学級環境	① 場の構造化	○ 教材の場所や置き方などが一目で分かるように整理されている ○ 児童生徒の実態に合わせた座席配置をしている	
	② 刺激量の調整	○ 教室内の掲示物は必要最小限なものにし、整理されている ○ 教室内の掲示物や棚などは、余計な刺激にならないよう配慮されている	
	③ ルールの明確化	○ 学習規律（学級内の約束事）を決めている ○ 学習規律（学級内の約束事）定着のための指導を継続的に行っている	
	④ 学級内の相互理解	○ 「分からない」、「教えて」と言える学級の雰囲気が作られている	
授業における指導方法	⑤ 時間の構造化	○ 授業の始めに内容の進め方について全体的な見通しを提示している ○ 授業の流れの中で、今、何が行われているかが分かる工夫をしている	
	⑥ 焦点化	○ 授業のねらいを絞り、本時で「何ができるようにになればよいか」が分かるようにしている	
		○ 児童生徒が取り組みたい、考えたいと思えるよう、本時のねらいや学習課題の提示方法を工夫している	
		○ 提示する資料等は、情報が多過ぎず、必要な内容を精選している ○ 指示や説明は分かりやすく、簡潔で短くしている	
	⑦ 展開の構造化	○ 本時のねらいを達成できるよう、学習活動の配列や時間配分を工夫している	
		○ 集中力を持続できるよう、活動の切り替えを工夫し、授業展開にメリハリを付けている	
		○ 振り返りでは、児童生徒に「分かった」、「できた」という達成感をもたせる工夫をしている	
	⑧ スモールステップ化	○ 課題達成までのプロセスに細かな段階を設定している ○ 必要に応じて具体例やモデル、ヒントの提示、考え方の共有等の工夫を行っている	
		○ 学習内容を目で見えて確認・理解できる工夫をしている ○ 指示や説明は聴覚的（言葉）だけでなく、視覚的に提示している	
	⑨ 視覚化	○ 重要なことはメモさせる、メモを渡すなど、記憶に負担がかからない工夫をしている	
		○ 見る、聞く、話す、読む、書く、触る、動くなどの活動を通して多様な感覚を使い、理解を深める工夫を行っている	
	⑩ 感覚の活用	○ ねらいに応じてペア学習、グループ学習を取り入れ、子ども同士が関わり合い、学び合い、教え合う場を設定している	
	⑪ 共有化	○ 理解度に応じたプリントなど、難易度の異なる活動内容や課題を用意し、児童生徒が選択できるようにしている ○ 課題解決に向け、個人で思考する、ペアやグループで話し合う、教師と一緒に取り組む等、学習方法を児童生徒が選択できるようにしている	